

<p>教育目標</p> <p>心豊かにたくましく生きる子ども ～生涯にわたる人格形成の基礎を培う～</p>	
<p>年度末の最終評価</p>	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和3年10月28日	学校運営協議会（書面＋聞き取り）
最終評価		

（1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに発達に応じた具体的なテーマをもち、エピソードを基に個々の子どもの「今、この瞬間」を探り充実できるよう話しあう。 ・「今、この瞬間」の充実を図るための環境構成や教師の援助について考える。 ・保護者の保育参加を計画し、子どもと同じ目線で活動し、心を動かしていただく機会をもつ。その際に子どもの内面の育ちを保護者に伝える。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討とマインドマップの作製に取り組み、個々の育ちを探る ○アンケート項目 <p>『園生活の中で、様々な成長がみられたか』</p>

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日々の幼児の姿の変容やエピソード検討とマインドマップ作製
--

- ・教職員が一人一人の子どもの『今』伸びようとしているところや、課題を的確に捉え、細やかな援助や環境構成を行っている。今年度はマインドマップ作製にも力を入れ、各担任がつくったマインドマップをさらに全体で検討したり見直したりし、子どもの育ちを視覚化できるようにと取り組んでいる。その結果、3歳児は一人一人のありのままを受け入れることで、安心感をもち、『先生や友達と一緒に楽しむ姿』、4歳児はそれぞれが心を動かす瞬間を捉えることが自ら経験の幅を広げ、思いきり動いたりし、『気の合う友達に自分の思いを言葉で伝えたりする姿』、5歳児は自分の思いで自由に遊ぶ素材遊びなどを通して、心を自由にすることで、『自分の思いを出したり友達の思いを聞いたりする姿』となり、一緒にめあてをもって取り組む姿がみられるようになってきている。
- ・保護者の保育参加は5月に行い、保護者が子どもと共に遊ぶことを通して、子どもの内面に触れたり気づいたりし、育ちを直接感じる機会となった。

○保護者アンケート『園生活の中で、成長がみられたか』

- ・100%の保護者がそう思うと回答

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新様式ではあるが、行事や参観をもつことができるようになり、子どもの育ちを直接見ることによって保護者の方の理解や協力につながった。 ・エピソード検討やマインドマップなどにより見えてきた子どもの育ちをクラス懇談で伝えたり、ICT機器を用いて視覚的にわかりやすく伝えたりすることができ、保護者の理解につながった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後半期も保護者の保育参加の機会をもつ。 ・継続して、個別、そしてクラスや園全体での育ちを、降園時や懇談などでポートフォリオやホームページ、便りなどで、視覚的に育ちを分かりやすく伝える。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の幼児の姿の変容やエピソード検討とマインドマップ作製 ・保護者アンケート『園生活の中で、成長がみられたか』
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が参観できる機会は少ないが、保護者や地域の声から、一人一人の子どもに即した保育が行われているという声はよく聞かれる。 ・今後、感染状況を見て、運営協議会理事も必要に応じて、保育参画や環境整備、保護者支援にも携わることはできるので申し出てほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
---------	----------------

(2) 幼小連携・接続に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・発達や学びの連続性に重点を置き、「学びに向かう力（特に好奇心・表現力・自己調整力など）」の育ちの姿を捉える。 ・南浜小学校との教職員の合同研修や参観や作品展などを通して互いに学び合う機会をもつ。また、ICTを活用した園児と児童の交流を行う。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード ○幼小連携、参観や合同研修の回数（リモートも含める） ○アンケート項目 『自分の気持ちを伝えようとしているか』 『好奇心をもって遊んでいるか』 『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ○「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな素材を使った感触遊びの中で、教師や友達と思いを交流して好奇心を高めている姿がよくみられるようになった。また、結果にこだわらず心を自由に活動する中で自分の思いを表し、集中して取り組む姿がみられるようになった。 ○幼小合同の研修会、交流活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに保幼小が合同で集合研修、9月にはスーパーバイズの研修を小学校と合同で行うことができた。幼稚園での遊びや学びについての共通理解を図り、子どもたちの育ちや教職員の援助の在り方、保育所や小学校それぞれの子どもたちの課題や教職員の取組などを交流し、相互理解を図ることができた。保育所との交流は1回、小学校とは場と時間を設けたのは1回ではあるが、日常的に交流を実施できている。今年度はチャレンジ体験も再開され、中学生を受け入れたことにより、2校の中学生との交流活動も実施することができた。 ○アンケート項目 <ul style="list-style-type: none"> ・『自分の気持ちを伝えようとしているか』 98%の保護者がそう思うと回答 ・『好奇心をもって遊んでいるか』 100%の保護者がそう思うと回答 ・『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』 100%の保護者がそう思うと回答
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・学びに向かう力の中で特に重視している『好奇心』『集中力』の育ちがみられている。 ・子どもの心の動きを捉え、読み取り、願いをもったかかわりをさらに探っていく必要がある。 ・交流活動を再開できるようになってきている。活動の再開にとどまらず、互いの育ちにつながるような機会をつくっていききたい。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらに5歳児では、友達同士の『高め合い』を、4歳児では、友達同士の『伝え合い』を、3歳児では、先生や友達との『関わり合い』を探っていききたい。また保護者との連携を深め、それぞれの子どもの興味や育ちに合致した活動を探るも大切にしていきたい。 ・可能な方法での教職員や子ども同士の幼小連携の仕方を探り実施につなげていく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びに向かう力」の育ちの姿に関するエピソード ○幼小合同の研修会、交流活動の実施 ○アンケート項目 『自分の気持ちを伝えようとしているか』 『好奇心をもって遊んでいるか』 『小学校や中学校との連携は育ちにつながっているか』
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい様式での幼小連携を探り、子どもや教職員の交流を積極的に行ってほしい。 ・南浜地域運学校営協議会の存在もあるので、地域の『より大きなつながり』も活用して行ってほしい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p>
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

(3) 預かり保育に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育担当教員（早朝預かりと教育課程に係る教育時間終了後預かりの2名）と担任や教職員との日常的な話し合いの時間を確保する。 ・課題については、具体的な解決に向けての援助を明らかにし、教職員間で連携を図る。 ・預かり保育時の災害に備えて、預かり保育の時間に避難訓練を実施する。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○預かり保育での子どもの育ちの姿の検証とともに、課題を共通理解できるよう機会をもつ。 ○『物的環境』『人的環境』の見直しを図り、年間指導計画に位置付ける。 ○預かり保育の時間内での安全指導を位置づける。 ○アンケート項目

『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』

中間評価

各種指標結果

○預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証

- ・早朝預かり保育の実施により、より子どもたちが安心して過ごすことができる時間や空間の設えを工夫している。個々に応じてかかわることで、安心して過ごすことができ、異年齢児同士の関わりも豊かになっている。

○預かり保育指導計画の見直しを進める

- ・週案の立案は、必要に応じて担当教員以外の教職員も共同で作成し、子どもたちの実態に即したものになるようにしている。子どもの姿を的確に捉え翌日や次週の保育に活かしている。

○預かり保育の時間内での安全指導実施

○アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』

- ・預かり保育参加者の保護者は100%そう思うと回答

自己評価

分析（成果と課題）

- ・保護者の就労により、利用者は増加傾向にある。保護者の方の様々なニーズに細やかに応えられるように努めている。
- ・預かり保育の利用3歳児が多いので、活動内容や個々に応じた場の設えの見直しを行う必要がある。
- ・預かり保育時間内での避難訓練を実施し、子どもへの安全指導とともに、教職員の動きについても再確認することができた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・個々の姿や保護者のニーズに応じた預かり保育の在り方を検討する。
- ・さらに異年齢児同士の関わりの中での育ちを育むための環境作りの工夫を重ねる。
- ・週案の立案や記録をもとに、年間指導計画の見直しを丁寧に行う。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

○預かり保育での、子どもの育ちの姿の検証

○預かり保育指導計画の見直しを進める

○預かり保育の時間内での安全指導実施

○アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・18時までの預かり保育を実施していることは、ほぼ地域に浸透していると思われるが、8時からの早朝預かり保育についてはまだまだ周知されていない。園からの回覧板やポスターなど、周知への努力も見られるが、さらに運営協議会理事も様々な会合などで広めていく。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

自己

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

評価	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の連携のもと、一人一人の子どもの育ちの芽を見逃さずに、適切な援助を行う。 ・子どもの理解に加えて、保護者の思いも十分に受け止め、必要な子どもへの具体的支援を共に考えていく。その際に『目に見える』成長だけでなく『内面』の成長にも気付けるようにし、ICTも活用していく。 <p>～未就園児クラスについて～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入園前の保護者の子育ての喜びとともに『たいへんさ』にも十分共感できる場とする。 ・年間の計画や活動内容を示し、活動計画や具体的な活動内容を配布プリントやホームページなどでわかりやすく発信する。 ・未就園児クラスの保育室の環境を『安心』『期待』をもとに物や配置を再構成する。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ○在園児保護者と連携する中での子どもの育ちの検証し、ICTを活用して発信 ○未就園児クラスの案内をより具体的にわかりやすくホームページなどで発信 ○未就園児クラスの環境整備

中間評価

各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ○在園児保護者と連携する中で、子どもの育ちを検証 <ul style="list-style-type: none"> ・園児同様、一人一人の保護者の方の思いや願いを丁寧に受け止め、共に考えたり悩んだりすることを特に大切にしてきた。その中で保護者とともに子どもの育ちを喜び合える関係が築けてきている。 ○未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信 <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信については、小規模事業所、区役所・児童館には園長が配布資料を持って出向き、担当者との連携を図り、小規模事業所の園行事参加も実現した。未就園児クラスのホームページを開設、その他として学区内回覧板や掲示板などで頻繁に開催状況や活動内容などを知らせるようにした。 ・登録者数は昨年並みではあるが2学期以降増加している。 ○未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証 <ul style="list-style-type: none"> ・保健師の講座や在園・卒業の先輩保護者による座談会を計画する中で、未就園児クラスの保護者が思いや悩みを互いに出し合ったり、育ちの見通しもったり、大人の関わりのあり方を学んだりする姿がみられた。
自己	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業所の園行事参加を含め、利用者には好評をいただいている。南浜地域及び周辺地域

評価	<p>における子育て支援センターとしての役割は一定果たすことができている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳児の保護者の方々の子育ての不安や悩みに応えたり、子育ての楽しさを味わったりできるような支援を充実させていきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域の子育て支援事業との連携を図り、自園の子育て事業についての周知を徹底する。 ・保健師の講座や先輩保護者との座談会を継続すると共に、未就園児や在園児の保護者の方々自身の『自己肯定感』を高められるような、話合いや日常の言葉かけ（相談）などに努める。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○在園児保護者と連携する中での、子どもの育ちを検証 ○未就園児クラスの案内をより具体的で広範囲な発信 ○未就園児クラス内での、子どもとその保護者の『育ち』の検証
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南浜地域だけでなく、周辺学区の子育て世代のサポートとして、貢献していると思われる。さらに『ロコミ』や『オンライン上』での広報活動に取り組んでほしい。運営協議会理事も、地域内外の会合で周知していきたい、 ・未就園児クラスの参加者増を引き続き目指してほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（5）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・園の取組を学区の諸団体にも行事予定などで発信する。 ・新しい様式の中で工夫しながら、運営協議会を中心として、子どもの活動を持続可能で多様なものにする。（畑づくり・田んぼ遊び・お米づくり・花売りやさん・伏見祭・十石舟乗船・お正月の集いなど）その中で、地域の方と子どもたちの心のつながりをもてるようにする。
（取組結果を検証する）各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とそこでの子どもの育ち ○アンケート項目『幼稚園の取組の中で地域や地域の人に親しみをもっているか』

中間評価

<p>各種指標結果</p> <p>○学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の会合は再開されつつあり、その会の中で幼稚園の保育の様子や未就園児クラスの取り組みなどを発信している。 <p>○運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中での子どもの育ち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園庭（主に畑）の整備・芝生の育成などを通し、日常的に幼稚園の教職員以外の地域の大人の方との多様な関わりがみられる。 ・今年度も引き続き小学校2年生との連携事業として『稲の栽培』に取り組んでいる。また例年に引き続きさつまいもの栽培も行っている。全園児が、運営協議会理事の方だけでなく、地域の方々の名前を覚え、親しみを感じ、見守られている安心感をもつことができた。 <p>○アンケート項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『幼稚園の取組の中で地域や地域の人に親しみをもっているか』は100%の保護者がそう思うと回答 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流活動も少しずつ再開し、直接子どもの育ちを感じていただく機会をもつことができた。 ・特別な『行事』や『取組』の中だけではなく、日常の中での様々な地域の方々との心の交流を活発に行うことができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園での育ちや、園の取組を学校運営協議会や地域の方々に、さらに詳しく明確に伝え、新入園児数の増加にもつなげていきたい。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学区諸団体や地域への情報発信の回数や内容 ・運営協議会のご協力で行う活動の取組状況とその中での子どもの育ち ・アンケート項目『預かり保育は子育て支援として役立っていますか』
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お米やサツマイモの栽培や園庭の環境整備などを通して、地域と園児との直接の触れ合いを積極的に行っている。引き続き、園からの要望に応じて、行動していくつもりをしている。

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>

価	
---	--

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人が自らの健康や生活を守り気持ち良く働くことが、幼稚園における教育の充実につながるという自覚をもち、自らの働き方についても意識改革を行う
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが自分の担当業務に対して、計画的に進めようとする意識をもつ ・担当が一人で業務を負うのではなく、教職員全体で業務を分担できるように、指示できるような体制づくりをする
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の勤務時間の推移 ○年休や特休などの取得率

中間評価

	各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の勤務時間の推移 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間はほぼ昨年並みを推移している。 ・昨年に引き続きクラス担任の業務の中で他の教職員がサポートできる業務については、他の教職員でカバーできるようにしている。職員会議などではなく、ホワイトボードや書面を通して指示するようにし、時間短縮できるように工夫している。 ○年休や特休などの取得率 <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の取得率のほぼ昨年並みを推移している。
自己評価	分析 (成果と課題) <ul style="list-style-type: none"> ・保育の質を保ちつつ、業務全体の量を減らせる方法を全教職員で模索している。 ・時間をかけて重点的に取り組むべき業務については事前に資料を配布するなど、各自でできる工夫をして取り組めるようにする。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・園全体としても効率化できる業務の見極めを行う。(例可能な業務は電子化・ファイル化を行い、効率化を図るなど) ・一人一人の教職員が計画的に業務を行い、短時間で進行できる工夫を模索する。
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ○教職員の勤務時間の推移 ○年休や特休などの取得率

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な個別の対応や、収束の見通しがもてない感染症対応など、大変な状況が続いているが、教職員の心身ともの『健康』があってこそ、豊かな保育であるので、さらなる効率化を図ってほしい。 そのために、環境整備など運営協議会としても支援していきたい。
---------	---

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p>